

統計会議

第 55 回セッション

2024 年 2 月 27 日-3 月 1 日

議題項目：5 つ*

議題: ビジネス・レジスター

(事業所情報管理課仮訳)

ビジネス・レジスターに関するヴィースバーデン・グループ報告書

事務総長ノート

経済社会理事会決定 2023/325 及び過去の慣行に従って、事務総長は、委員会に提出されるビジネス・レジスターに関するヴィースバーデン・グループの報告書を送付する光栄を有する。

* E/CN.3/2024/1.

I. 概要

1. 「ビジネス・レジスターに関するヴィースバーデン・グループ」は、国連統計委員会が設立したシティーグループである。その精神に則り、参加者の積極的な参加によるビジネス・レジスター統計の開発、維持及び使用に関する意見や経験を交換する場を提供している。本会合は、ビジネス・レジスター統計の使用方法及び作成に関する効果的な開発と実用化について、概念的及び方法論的な問題を検討している。さらに、統計の作成と普及におけるビジネス・レジスターの役割に関する議論と開発を通じて、構造的経済統計に対するより統合的なアプローチを支援する。
2. ヴィースバーデン・グループは、1986年にビジネス調査に関する国際会議として設立され、1986年にオタワで第1回会合を開催した。2007年にドイツのヴィースバーデンで第20回会合が開催されたのち、ビジネス・レジスターに関するヴィースバーデン・グループと名称が変更された。この名称変更は、国連専門家会合の命名規則に準拠したものであるとともに、経済統計の作成のためのバックボーンとなりつつあり、かつ統計情報の情報源と考えられる統計的ビジネス・レジスターの役割の変化を反映したものである。
3. 第28回のヴィースバーデン・グループ会合（<https://www.cbs.nl/en-gb/featured/28th-meeting-of-the-wiesbaden-group-on-business-registers>を参照）は、オランダ統計局によって、2023年10月2日から6日までハーグで開催された。4日目と最終日には、関心のある国々によって、統計的ビジネス・レジスターの再設計に関する特別セッションが開催された。
4. 本会合には、44か国6国際機関82名が参加した。会合は、4日間の定例会合（初日の基調講演と6回のテーマ別セッション）と最終日の特別会合という構成になっている。会合の3日目では、全体会合から下記セッション5に移り、3つのブレイクアウトグループで同時にセッションを行った。4日目の冒頭で、前日のセッション5の各グループの討論内容が参加者全体に共有された。そして、最終日には統計的ビジネス・レジスターの再設計に関する特別セッションが開催され、ワークショップ形式を通じて、各国が再設計のための経験とアイデアを交換した。本報告書では、各セッションの概要を紹介する。

II. 第28回ヴィースバーデン・グループ会合でのビジネス・レジスターに関する報告

A. Session 1：カントリープロGRESSレポート

5. カントリープロGRESSレポート（CPR）は統計的ビジネス・レジスターに関する各国の現状及び未来の発展を記述し、今後の専門家のために（統計的ビジネス・レジスターにおける）新たな活動を明らかにしている。統計的ビジネス・レジスターの維持と管理に関する各国の異なる見解は、公的統計分野での統計的ビジネス・レジスターの役割について有用な情報を提供し、カントリープロGRESSレポートの結果を示している。
6. 第27回ヴィースバーデン・グループ会合に向けて、メキシコ国立統計地理研究所（INEGI）は、各国がカントリープロGRESSレポートをオンラインで記入し、提出することができるオンライン・ウェブベースのデータ収集システムを開発した。このシステムにより、カントリープロGRESSレポートの回

答がデータベース（データ解析と結果の配布に使用されていた）に保存された。このシステムは、過去 1 年間に国連統計部（UNSD）に引き継がれ、カントリープログレスレポートのための新しいデータ収集システムへと発展した。なお、システムの管理・維持は将来的な利活用のために国連統計部が担っている。

7. オランダ統計局は、カントリープログレスレポートのデータ収集に国連統計部の新システムを使用した。質問票にオンラインで記入できなかった参加者に対しては、Excel で回答する機会を提供し、その回答を機械処理した。収集された報告書は、以下のリンクから入手できる：

<https://unstats.un.org/wiesbadengroup/cpr/>

8. このセッションの議長国はオランダ統計局である。合計 65 件のカントリープログレスレポートが収集され、そのうち 63 件が国のビジネス・レジスターとして報告された一方、国際取引主体識子財団（GLEIF）と欧州連合統計局（Eurostat）については、世界の事業体に関する彼らのビジネス・レジスターについて報告された。世界中の多くの国がカントリープログレスレポート調査に回答しており、そのことは統計的ビジネス・レジスターの維持が重要であることを証明した。約半分の組織が 2000 年以前に設立されたビジネス・レジスターを利用し、残りの半分はそれ以降に設立されたビジネス・レジスターを利用している。

9. 3 つの国立統計研究所（NSI）のうち約 2 つは、統計的ビジネス・レジスターはビジネス統計におけるデータ収集のための母集団情報として使用されるか、行政記録情報を母集団情報に結びつけるための母集団情報として使用されると報告している。統計的ビジネス・レジスターのもう 1 つの重要な目的は、ビジネスデモグラフィック指標（例として活動的な企業集団の「出生」又は「死亡」の数など）を作成することである。統計的ビジネス・レジスターの対象範囲を改善するためのいくつかのイニシアチブが報告されている。個人企業の統合が非金融、金融会社、政府機関又はその他の事業体の統合の背景にあるが、一般に SBR における単位の違いの範囲は、公的ビジネス統計を支援するのに十分に思われる。

10. EU 法に則り、ヨーロッパ諸国のほとんどでは、欧州連合統計局やほかのヨーロッパ諸国と（居住する法的単位の）国境を越えて、情報を共有することが許されている。合計 43 の国立統計研究所は、ヨーロッパ諸国の統計的ビジネス・レジスターは、地理空間座標を維持するか、統計的ビジネス・レジスターにリンクを格納して、街路マップ上の地理空間情報を視覚化したり、地域ごとの違いを特徴づけることができると報告した。

11. この会議では、国別統計的ビジネス・レジスターの抜本的見直しや改善が中心的な課題とされた。2015 年以降、カントリープログレスレポートにおいて、40 カ国が統計的ビジネス・レジスターの抜本的な見直し案を報告しており、21 カ国が過去 3 年間に統計的ビジネス・レジスターの再構築を行っている。新たな取組の多くでは、統計的ビジネス・レジスターを維持し、異なるタイプの統計の単位集団の発展と時間軸を改善するために、行政記録情報を統計的ビジネス・レジスターに関連づけていた。また一方で、統計作成における行政記録情報の統合と新しい IT システムの開発も、現在及び近い将来の主な課題として報告されている。

B. Session 2 : 複雑な統計単位のプロファイリング

12. プロファイリングは、一般に、ビジネス界における法律、業務、会計の構造を調査する方法と呼ばれている。これは、統計データの収集に適した統計単位を描写し、経済における大規模で複雑な統計単位の影響をよりよく理解するために行われる。
13. ドイツ統計局が議長を務めたこのセッションでは、必要なデータソース、検討対象となるグループの選択、複雑な統計単位の背後にある組織の「取扱い」について、世界的な見解がいくつか示された。
14. このセッションの主な結論は、プロファイリングは進行中のプロセスであり、データソースが不足していることが妨げとなる可能性があるということだった。しかし、適切な専門知識と「プロファイリングを続けながら学習を続ける」ことによって、複雑な統計単位をよりよく理解できるようになり、それによって、データ収集の改善につながる可能性がある。最終的には国内及び国際的な統計を提供するためのより一貫性のある情報が得られるだろう。
15. このセッションでの成果は、最も複雑な企業グループにおけるプロファイリングが、各々手作業で行われていることを示したことである。理由としては、関連する多くのデータソースを、自動化処理やITプログラミングによって依存的に活用することができないからである。この文脈における「手作業」とは、高度な専門スタッフによる、ビジネス・レジスターの統計単位の構造及び内容の分析調査を意味する。ITは、データ処理において有用な技術的支援を提供することができるが、今日まで、プロファイリング結果の内容自体は、人間による「手作業」の領域を脱していないのである。

C. Session 3 : グローバル化と LCU

16. ビジネス統計の収集は、長年にわたって大企業のグローバル化の影響を受けてきた。実際、大規模で複雑な多国籍企業（MNE）グループが存在している最大の理由は、国家間のデータの非対称性にある。大規模企業グループは、多くの異なる国で組織されているが、生産的な理由だけでなく、利益の最適化や良好な税金環境などの経営上の理由からも組織されている。
17. グローバル化の課題に対応するために、ラージ・ケース・ユニット（LCU）を設定した。LCUは、統計単位の構造を正確に把握するだけでなく（プロファイリング・タイプ・アクティビティ）、より正確で効率的なデータ収集を実現する。LCUは、大規模な多国籍企業グループのためのフル・スケールのデータ収集を通じて、統計単位の編成に関与できる。したがって、LCUの役割は統計局のさまざまな部門にまたがるものであり、会計知識などの追加のスキルを必要とする。LCUの設計と機能への投資は、各国の実務の有用な比較を提供する。
18. このセッションでは、イギリスが、大規模なケース・ユニットを開発する手法について説明した。これは、ビジネス調査、行政情報及びその他の情報源からのデータの収集を通じて、大規模で複雑な企業によるグローバル化の影響を、確実に把握することを目的としている。英国の国家統計研究所にLCUを設置する利点は、統計作成プロセスの初期段階でデータの不整合を識別できることである。これ

により、広範囲の経済統計を提供する重要かつ大規模で複雑な企業からのデータの品質が向上する。また、データの管理負担の軽減にも貢献する。

19. 欧州連合統計局は、欧州各国で進行中の多国籍企業関連の活動を支援するとともに、多国籍企業グループのデータ矛盾を解決するための技術的なインフラとアプリケーション（例：European Groups Register、Early Warning System、International Profiling Tool）を提供している。オープンデータを用いた多国籍企業プラットフォームの OECD/UNSD 共同開発は、EU ネットワークにアクセスできない人々にとって非常に興味深い開発であった。その後、GLEIF は、GLEIF がどのようにして企業関係を理解するための解決策を提供できるのかを示した。

D. Session 4：産業分類システム

20. 産業分類システムは、経済活動を収集して表示するための枠組みを提供する。一般大衆及び意思決定者が重要な政策課題について情報に基づいた決定を行うためには、経済の現在の産業状況を反映することが重要である。世界中には様々な産業分類システムがあり、それぞれが経済の産業構成に関する独自の視点を提供している。例として、北米産業分類システム（NAICS）、経済活動の品目別分類（NACE）、全経済活動の国際標準産業分類（ISIC）などがある。各産業分類システムは定期的に更新され、ビジネス・レジスターではその変更が反映され、統計単位が再分類される。これらのシステムの更新には、軽微なものもあれば、ビジネス・レジスターに大きな影響を与え、実装上の課題をもたらすものもある。

21. 今後の NAICS 又は NACE の改訂は統計機関にとって非常に重要である。多くの国にとって、「工場のない製品生産者」、「シェアリング・エコノミー」（例えばデジタルプラットフォーム）又は「特殊目的事業体」のような新しい活動を分類するための適切な情報源、技術及び方法を見つけることは困難である。会議中、欧州連合統計局と国連統計部は、改訂された NAICS 及び NACE における主要な変更の概要を発表した。（議論後）統計的ビジネス・レジスターの単位の約 40%がこの操作によって影響を受けることから、国及び国際統計への規模及び影響は非常に大きいことが判明した。

22. インドネシアとフランスは、AI（人工知能）を用いた活動分類の手法を提示した。最初の結論は、活動（及び製品）のテキスト記述に基づく産業分類に対して機械学習モデルを使用することが可能であることを示している。では、そのために重要な要件は何かというと、活動の記述の質と、非の打ち所のない完全にコード化された（全国的な）NACE/ISIC 分類である。

23. 多くの統計機関は、特別な調査の実施を防止し、余計な管理負担を軽減するために、統計単位の活動を自動的に分類するための適切なデータソースを検討している。考慮すべき重要なデータソースは、企業のウェブサイトである。ある商業組織は、詳細な活動を ISIC 分類に分類するために、ウェブデータとビジネスレジストリデータを結合することによって彼らの専門性の高さを提示した。

E. Session 5：統計的ビジネス・レジスター成熟度モデルに関するワークショップ

24. 統計的ビジネス・レジスター成熟度モデル（SBR-MM）は、各国の統計的ビジネス・レジスターの現状を評価するための枠組みを統計学者に提供するツールであり、統計的ビジネス・レジスターのい

くつかの次元のステージを検出するのに役立ちます。統計的ビジネス・レジスター成熟度モデルは、知識と有効な実用化を共有し、開発のために可能性のある次の課題を決定し、それらの課題を実際に行うことができるようにするための指針とヒントを見つけるためのツールとなることを目的としている。この考えは、各国における統計的ビジネス・レジスターの実施状況を世界的に概観し、技術援助の優先分野と更なる方法論的指針及び将来の作業のためのトピックを特定するために、統計的ビジネス・レジスター成熟度モデルについて世界的な評価を行うものであり、2022年の第53回国連安全保障理事会においても支持された。カントリープログレスレポートと一部重複する部分があることから、カントリープログレスレポートを統計的ビジネス・レジスター成熟度モデルの自己評価アンケートからの追加質問に拡張することにより、ヴィースバーデン・グループのカントリープログレスレポートと世界的な評価を組み合わせることを提案し、参加者及びヴィースバーデン運営グループのメンバーから支持された。

25. 「任意の」ビジネス・レジスターを開発し、ほかのソースとのマイクロデータ・リンクをサポートするためには、「世界的な」一意の識別子が重要であることが強調された。

26. このセッションの第2部では、会議の参加者を「ブレイクアウトルーム」と呼ばれる小さなグループに分け、参加者は自分の興味がある議題について討論しているルームを選択することができた。1つ目のルームでは、いくつかの国が統計的ビジネス・レジスターを開発するためのアプローチを発表し、統計的ビジネス・レジスター成熟度モデルに関する進展を示した。2つ目のルームでは、地理空間情報の重要性が強調されました。(街路)地図上の統計情報を視覚化する機能は、(地理的空間情報の)主な利点の1つである。最後のルームは、「現代的な」統計的ビジネス・レジスターの、より高度なトピック(及び課題)に関する情報を共有するためのものであった。このセッションでは、多くの国が同様の課題に直面しており、特にIT関連の問題に直面しているという、全体的に興味深い結果を得ることができた。

27. 本会議では、「ブレイクアウトルーム」で議論された結果が、ルームセッションのリーダーによって要約され、本会議で共有された。個々の専門知識と関心・好奇心の両方を満たす形で議論するという手法は、参加者に歓迎された。

F. Session 6：新しいデータの情報源：機会と課題

28. 経済開発協力機構(OECD)が議長を務めるこのセッションの目的は、統計的ビジネス・レジスターの適時性、適用範囲及び品質を改善するための新しいデータソース及び新しい技術の使用に関連する機会と課題について議論することであった。

29. セッション中に発表された、きわめて多岐にわたる一連の論文は、公的統計、特に統計的ビジネス・レジスターの作成において、代替データがさまざまな方法で使用できることをよく示している。これらの論文は、統計的ビジネス・レジスターの対象範囲の拡大、新しい指標(例えば、シンガポールによる早期警報システム)やチェック・ツールの開発(GLEIFによる)、あるいは分析範囲の拡大(例えば、メキシコによるジェンダーと貿易に関する情報の提供)の参考となる。

30. しかし、これらのデータを使用する際には、適切な IT インフラストラクチャや、これらのデータを処理するための技術的な専門知識など、いくつかの課題が存在した。また、行政記録情報やマイクロデータなどの一部のデータへのフルアクセスも大きな障害と見なされ、多くの NSO（国家統計局）がこの問題に対処するために、公的統計のほかの作成者との間で覚書を作成している。

G. Session 7：統計的ビジネス・レジスターの再設計

31. このセッションでは、統計作成過程に統合される統計的ビジネス・レジスターを再設計する手法に議論が集中した。重要な項目は、統合する情報、メンテナンスのためのインターフェース、又は新しい統計的ビジネス・レジスターのシステムの技術的な解決策を開発するための利害関係者とのコミュニケーションであった。

32. このセッションでは、3 カ国がプレゼンテーションを準備していた。オランダ統計局は、統計的ビジネス・レジスターの再設計のきっかけに焦点を当て、再設計の出発点としての世界的な新しいビジョンと、今後予想される課題を示した。英国統計局は、再設計プロジェクトの進捗状況を示し、（コンピュータ・システム）の複雑さ、リアルタイムでの処理をサポートする機会、及びより多くの（メタ）データを格納する可能性に焦点を当てた。最後に、彼らは今までに得た「教訓」を共有した。スイス統計局は、統計的ビジネス・レジスターの再設計を 2 回行い、両方の再設計の展望についての考えを示した。彼らのプレゼンテーションを通して、再設計の概念は、再設計プロジェクトにおける全ての利害関係者の共通理解の助けとなることを学んだ。そのほかの推奨事項は、初期段階におけるコミュニケーション戦略、選択された技術に関する人々と知識の利用可能性である。

33. 午後には、統計的ビジネス・レジスターのシステムの再設計を開始する前に、会議の参加者を再び小さなグループに分けて、最も重要なテーマについて議論した。この議論は、オランダ統計局の局員によって進められた。参加した専門家からの提案と勧告は、ポスターに書かれていた。ヴィースバーデン・グループの組織は、再設計のアプローチの要素としてこれらの勧告を使用するであろう。

III. 結論

34. 統計的ビジネス・レジスターは、統計機関が公的経済統計を調整するための重要な手段であり、統計的ビジネス・レジスターの設置に関する勧告を提供するために、多くの国際的なガイドラインが利用可能である。

35. 国際的な多国籍企業グループは、国内及び国際的な統計システムに大きな影響を与えており、グローバル・グループ・レジスターや EU グループ・レジスターのような国際的かつ先進的なイニシアチブは、世界中の経済を記述し比較するためにより重要になるであろう。

36. 大規模で複雑な企業グループをほかの小規模な企業グループと区別して扱うことは、国家統計の全体的な質を向上させ、これらの組織がどのように運営されているかについての理解を深めることになるであろう。上記取り扱いをするにあたっては、特別な LCU 又はプロファイリングが便利である。

37. 統計的ビジネス・レジスターの浸透というタスク・フォースは、多くの国に統計的ビジネス・レジスターの設立、改善、再設計を促すために多くの手段を開発してきた。成熟度モデルは、各国が統計的ビジネス・レジスターの状態を特定し、それぞれの必要性についての指針を提供するための最新の手段である。

38. 今後数年間、NACE/ISIC の新しい改訂は多くの国にとって時間のかかるプロジェクトとなるだろう。単純労働を制限し、調査を防ぎ、効率的であるために、新たな技術による解決策が要求される。。

39. カントリープログレスレポートは、多くの国が過去5年間に統計的ビジネス・レジスターの再設計を行ったと報告している。各再設計にはそれぞれの課題があるが、作業を迅速化するために事前に共有できる多くの類似点もある。

40. ヴィースバーデン・グループ会合の次の開催地は未定である。

IV. 統計委員会が取るべき措置

41. 委員会は、本報告書に留意するよう求められる。